（第三種郵便物認可）　大正十四年一月廿日

立教大學新聞

月刊毎月拾五日發行
編輯印刷兼發行人　矢部寅一
發行所　東京池袋　立教大學
電話大塚四〇四
振替東京七六六
一定價　一年　一部　一冊　一行　二五　十拾錢
廣告料　一頁　二頁　三頁　四頁　五頁　六頁　七頁　八頁　九頁　十頁

著者二十七年の心血
編纂延人員十萬！
英書・英字新聞と共にぜヒ一冊英和の決定版

大英和辭典

文學博士　市河三喜
文學博士　畔柳都太郎
飯島廣三郎
◇共著◇

一高教授　小椋清次先生
★
説明が明快に整理してあるかは、シェクスピアの引用には坪内博士の譯を附し、聖書からの引用には英語聖書の譯文が附してある一語からでも一驚を喫し得るであらう。

陶倉由三郎先生
本辭典は愛讀すべきものである。又長年ともなり、これれたなかいそれ（）となり、この辭典が卓上の寶となる。

頭本元貞先生
常分は我國におけるスタンダード英和辭典の榮譯はこの辭典の古有に興するものと信ず。
★

定價　七圓五十錢
特製　八圓五十錢
新六八判一八六六頁

新譯註解和獨辭典

文學士　小田切良太郎
ウオール・フブルト　共著
定價　三・五〇
三六判・一七〇〇頁
我が國唯一の和獨辭典
獨語學習書唯一の權威書

東京神田振替東京五〇番丸ビル賣店　冨山房

標音佛和辭典
萬國音標を基礎語彙及び語代近を羅列した新最裝革洒瀟版
山本直文編・定價貳圓
教授　院授　山本直文
料送　錢五　價賣　十
擴大版
定價　圓五　錢三三　送料

増補版　大和佛範模辭典
十大家共編　價九圓　定價　頁〇〇二　萬十數部　送料三三錢

白水社　和佛辭典
丸山鄭太郎編　價〇八圓三　定價　頁〇四七　萬五數部　送料一二錢

最新版　新佛和熟語辭典
德尾俊彦編　價〇八圓二　定價　頁〇七四　萬二數部　送料五一錢

獨逸語速成の秘訣は！だれ是は決

獨和編　布製　正價金一圓五十錢　送料金六錢
獨和編　革製　正價金二圓　送料金六錢
獨和編　布製　正價金一圓二十錢　送料金四錢
獨和編　革製　正價金一圓五十錢　送料金四錢
同合本　布製　正價金二圓五十錢　送料金十錢
同合本　革製　正價金三圓　送料金十錢

戻は此動詞辭典を使ふ樣になつてから獨語も獨作も、いつも百パーセントだ。「獨語だ。夫れ迄は邊習に時間はかり費して、しかも獨逸の獨和辭典を引いて見ても見つからない字ばかりで、二時間も三時間もかゝり、とゞのつまりあきれて中止して仕舞ひ、翌日先生には、こらまた、ずゝつたなと叱られる樣な馬鹿を見て居た。
處が、と友人から敎へられて此動詞辭典を見れば、他の獨和辭典に出て居ない動詞の變化が悉く明瞭に出て居るではないか、Imperfect, perfect, Pres. Ind. Pres. Conj. Imper. Infin. Part. Pres. Part. Perf. と云ふ風に人稱動詞や其過去の變化が其變化したる形のまゝで出て居るし、昨今の新規の動詞も載せてゐるし、又動詞と前置詞との關係が前置詞次第で意味の變化を生ずる場合が、實例で誠に親切に說明せられて居る、又獨逸の抽象名詞の多數は動詞から變化して出來て居るので此動詞辭典の動詞の說明で名詞の正體な意味が攝まれるので僕はなぜ早く此辭典を使はなかつたかと自分乍ら自分の間抜けさに呆れる樣な、此動詞辭典さへあれば他に金傳でどんな論文でも作文も先生をあつと言はせる事が出來る、實に古めたものだ。（此辭典使用者の談）

東京市本郷區龍岡町
振替東京六三三八番　南山堂書店

なくてならぬ獨逸動詞辭典

第八高等學校講師　澤井要一著
袖珍型印刷鮮明
內容見本贈呈

參考書文房具
山崎賣店
立教大學通用門前

大評判
世界各國の選手が、練習に、決勝に、神技を競ふ、素晴しい光景を、細大洩らさず、壯美を極めた寫眞版にしてアート紙印刷
且つ一々簡明な說明を加へた。別に、クリーム・コットン紙の七一頁
解說の面白さは競技別さながらロサンゼルスの競技全シーンを見るが如く、展開せるオールトーキーの大映寫はこれ。
先づ、前後の見返しには、大競技場を浮彫式のグラビヤ版とし▼扉には、二本の大日章旗が飜る感激の光景、
▼口繪には、中二尺四寸竪九寸の掛額用オリムピック大會場全景の航空俯瞰寫眞。
▼以下、開會式。陸上競技に於ては、各國選手の飛躍、跳躍、南部君の三段跳、西中尉の妙技は、手に汗を握らしめる。
▼水上競技日本チームの素晴らしさは、眞に壓倒的である。宮崎君、北村君、鶴田君、前畑孃等々々、何といふ歡喜に溢れた優勝振り！　夫等の間に、各國選手の放れ業、眞に雲を凌けり、水を潛りタイムを破つて人間業を超越せる神技は、世界各國より集れる十万の觀衆に圍まれて天下空前の壯觀。
▼今それらの凡てを、立體的にグイヴイッドに、或は大寫しとして、或はスナップとして、朗らかに活寫せる劃期的の、
大寫眞帖
▼卷末に、馬術。ボート。ホッケー。レスリング。ボキシング各國選手の練習。オリムピック村其の他雜等々々
無慮寫眞
三百三十枚
四六倍判
二百頁
此內容・此廉價
賣切れぬ內に即刻書店へ!!

果然

短期特價提供
並製版（棒高跳寫眞表紙ニス引）特價一圓半（定價一圓八十錢）
特製版（金箔色箔押總布製函入）特價二圓（定價二圓卅錢）
品切の節は直接本社へ

發行所　東京日本橋區馬喰町
興文社
振替東京一八四四

實習佛蘭西文典
東京西科大學教授　內藤灌著
改訂增補版　定價一圓八〇錢　送料一二錢
即明なる佛蘭西文法書として廣く世に知られてゐる本書は、こゝに中味に於いても、形に於いても全く新返つた。「閑るべきは削り、更むべきは更め、補ふべきは補つた」と著者が言ふ以上に千九百三十年代に新しい新味を多分に持ち込んだ改訂版である。殊に「平調文と強調文」の添加により本書の價値は倍加せられた。

標準佛蘭西會話
大阪外國語學校教授　目黑三郎著
最新刊　定價一圓五〇錢　送料六錢
「これだけは是非必要であり、これだけ覺えておけば大丈夫だ」と言へるだけの會話つまり最も實用面の多い表句を最小限度に選び出してゐを要領よく配列したのが本書の特色である。洋行者にも極めて親切であり、日本に居て佛蘭西會話を覺えようとする人及會話をする必要ある人にも充實なきまでに心を配つてゐる。

英語より佛語へ
大阪外國語學校講師　德尾俊彥著
發音篇、單語篇、文法篇、短文篇、長文篇の五篇に分ち、總て英語と系統的な關連を保つて、英語と佛語の相違の點、全く異つた點を簡明に表示し、研究者が英語の素養を利用して、容易迅速に佛蘭西語を獨習出來るやう組織してある。六版を重ねて、著者は更に發音說を加へ一層好素の完璧を期した。

近代コント撰集
佛蘭西文學十講　秋田玄務譯註　價一圓　送料八錢
壯文學叢書　玄田玄務譯註　價一圓　送料八錢
出版目錄呈送
發賣　東京神田駿河臺一一九二二番　振替口座東京一一二二九
白水社

オリムピック報書

發行所　東京日本橋區馬喰町
興文社
振替東京一八四四

學園未曾有の大更迭

木村學長陣頭に立ち 最高幹部を決定

小島文學部長は居据り

去る八月十八日付本紙がいち早く報道せる如く九月新學期早々斷行されるべき最高幹部及び一般教職員にまたがる未曾有の大更迭は果して豫定のコースを取つて去月二十二日輕井澤での理事會において杉浦前學長の辭表受諾、代つて木村新學長の就任と決定するや最高幹部の人選及び教職員の異動は加速度的に行はれ九月十二日の新學期明け迄には殆ど全く整つて、十二日にはすでに左の如き更迭發表を見るに至り學内外遊の噂の人小島文學部長は居据りと決定、教任教授は目下各部署について更新の檢討に活動してゐる尚杉浦前學長は八月二十一日付を以て辭職し去月二十七日附辭職の如き挨拶狀を後友手元まで送つた

上記の如く余聞以前本學部學部に教べんをとつたが、その後は官立學校で主として活躍した人で、從つて今回の如きは新學長としての抱負もまた、杉浦前學長と異つたものがあることゝ推測される、例へばその一端とも見るべきは新學期より農科生の出欠が急に嚴格になり、學期試驗よりも寧ろ出欠を重要視すること、農科英語の充實は從來よりしばゝ叫ばれてゐたが、新學期よりこれが斷行され、時には學長自身が不時試問をするともいはれてゐる、これらは主として學部科學教水準を高めるための施策であるが、多年の懸案であり一般學生の要請してゐる研究室及び實驗室の設置、本館南翼の增築等に關しても新學長は積極的意見を持つてゐる樣子であるが、これらには先立つものは金であり、現在の大學財政には一朝一夕には如何ともなし難く、たゝへ新學長を迎へたとしてもこれが解決は所詮時の問題ではないかと見られてゐる醫學部問題もこの意味においてはおいそれと自負がつかずこの當分は鳴かず飛はずで據置きにするのが最良の方法であるといふのが一般の意見らしい

しかし、いづれにしても別項記載の如く木村新學長は經濟學部長時代の如く木村新學長は經濟學部長時代の如く木村新學長は經濟學部長

學長就任式

去る十七日本學ホールで

去る十七日午前十一時より本學ホールにおいて杉浦前學長の辭任式並に木村重治氏の就任式が行はれた、杉浦前學長は八月下旬、突如斷行された教職員の

變動　によりいずれも木村重治氏に繰り上げ任したのであるが、教職員以來三十五年間を「沈默の神」として一般學生より敬はれて來たのである、辭任式に當つて氏は謹、

自分は老齢のため學職に耐へ難きを以て辭任するのやむなきに至つたがこれは單なる細事に過ぎないから知れぬがこれも社會の動きであつて如何ともなし難い組自然的な事である

外部　より幾多の事を學び、次いで木村新學長の就任の挨拶あり就任式並びに就任式を終つた

三十五年を立教學徒の爲に

杉浦前學長の偉業

昭和三十九年よりこのかた、三十五年の長日月しゝとして立教學徒の誠實、立教スピリットのはつようにそのほとんどを

全生涯　を捧げ盡して今日に至つた杉浦氏は去る八月三十一日付を以て思ひ出の母校立教を去り具體的に立教學徒との關係は一部教員といふ微弱な線一本でもり、有爲天變は人の世の常とはいふものの余りにも突如として寂しく去つた氏の

後ろ姿　は誰しも同情の涙を持たざるを得なかつたけれども陸軍及び立教より感謝によつて物質的には後顧の憂ひはない、なほ八月二十七日付各校友宛左の挨拶狀を送つた

拝啓　秋風の候盛々御清榮の段奉大賀候。扨小生儀非才を以て立教大學學長の重職を汚すこと茲に十年に垂んとし誠に恐懼に堪へず、殊に校友諸兄の御後援に依りて計畫したる醫科大學の件も時の勢に抗し難く昨今停頓致居候に付ては、疾くに退職仕り以て後事を新進の俊才に委す存念に有之候處、今般學院理事會の決議により學長更迭を可とせられ八月三十一日を以て解職相成候に付き茲に謹んで御報告申上候。顧みれば大正十二年故元田博士東京教區監督に御榮轉の後を襲ぎ大學昇格僅かにその形式を具へたるのみ局に當り、且かの大震災に遭遇致したるも、ライフスナイダ機理の異常なる御努力により復興資金も調達せられて再び發展の途に上ることを得、爾來内には職員諸氏初皆の御精勤と外には校友諸兄絶大の御庇護により大學の内容も追々充實せられて今日の現狀と相成候段誠に感謝に堪へず茲に退職に際し厚く御禮申上候。

學園は動く

立教大學と杉浦學長の因緣

今秋の大改革

今秋の學期始めをチャンスにして突如本學當部愛の職員の通りであるが、何故前學長杉浦真二郎氏は辭めなければならなかつたか、いや換言すれば何故辭めざるを得なかつたのであるか……といふことはこれまた立教大學の職制改革と、ともに大きな問題である

杉浦真二郎氏は本學に奉職する事三十六年事實上學長のイスにあること九ケ年有余その間立教のため全生命を打ち込んで文字通り輝く立教大學をヨリ輝かせるために努力して來た事は何人も認ふ事の出來ないことである、そして杉浦氏が今後益々立教のため盡力されるであらう事を期待してやまなかつたところだ、その矢先杉浦學長は辭任された

こはされた「老父の首」

中森氏の傑作

去月下旬横濱へ、五點出品し、多大の好評を博して入選した中森氏の作品中、氏のもつとも力作せる「老父の首」が發展綜表の日に破壊せらるゝに至つた、同氏は昭和五年度本學藝術科の卒業、卒業

後、歐米諸國によつて、方向轉換なし、轉換方面へ進んだものであるこの破壊された白骨も同郷の名士へ送るものである【寫眞は破壊された作品】

學園は動く

杉浦學長の因緣

今秋の大改革

今秋の學期始めをチャンスにして突如本學當部愛の職員の通りであるが、何故前學長杉浦真二郎氏は辭めなければならなかつたか、いや換言すれば何故辭めざるを得なかつたのであるか……といふことはこれまた立教大學の職制改革と、ともに大きな問題である

杉浦真二郎氏は本學に奉職する事三十六年事實上學長のイスにあること九ケ年有余その間立教のため全生命を打ち込んで文字通り輝く立教大學をヨリ輝かせるために努力して來た事は何人も認ふ事の出來ないことである、そして杉浦氏が今後益々立教のため盡力されるであらう事を期待してやまなかつたところだ、その矢先杉浦學長は辭任された

學生減少案をどう見る

實施は相當困難だと

◇…某幹部は語る

過般都下の日刊紙は官私大學收容學生數を減ずる文部省案なるものを報道したが、同案の發表は學生數の私大當局者間にセンセーションを起してゐる

財界　の不況の余波をうけて學生の中途退學者は激增の狀況をとり、私當學局では學生吸收策に苦心してゐる折柄、私大側に付與されない限り多大の困難に逢着するものと見てゐる向が多い、これに對し本學當局では未だ何等の

對策　を發てゐないが、某幹部は私見だと前置きして左の如く語つた

立教ではもと〳〵收容數は萬だ少數のため文部省案の圏外に立ち、從つて問題にならないが、多くの私大中には文部省案の實施に賛同出來ない多くの事情があるだらうから相當有力な反對意見も出ること、思ふ

伊藤教授の美學

(國粹主義)教授は過般東洋經濟新報八月號(第四百卅)文學部二、三面學年の全學生にもれなく配布した、この號には次の如き美辭がひそんでゐる

東洋經濟新報八月號解説は各專門家を聘して小國際問題に關する講演會の記事に答てられており、同教授は時節柄問題の正しい認識を學生に與へたいとの熱心な學生思ひから幸ひ同誌を入手したので今回の巻に出たものである

英米文學

十七日に發行さる

六月下旬に發行される英米文學

瀧本新聞學會長

逝去さる

去月下旬持病の胃癌で

本學新聞學會顧問瀧本誠一博士は前學期より持病の胃癌のため市外中目黒の自宅で療養中であつたが去月二十日午前四時つひに病歿

一變　家族親戚に見守られつゝ逝去した行年七十七、遺族としては長男稔、次男繁の二氏があり繁氏は昨年度本學新聞學部出身である。なほ二十三日午前十時より十一時迄自宅において告別式が行はれたが

杉浦前學長、林慶應義塾長、伊達逸郎代理を初め故人の親友たる經濟界一郎氏の顧も見る學界官界の名士の弔問客弥を斷たざる有樣でそゞろに故人生前の交際の廣さをしのばしむるものがあつた

慶應大學會よりは花環一箱及び弔文を捧げてうやゝしく故會長の靈をなぐさめた

【寫眞は瀧本會長の告別式】

無關心

的態度への警鐘

全國學生新聞は學校當局の權力的干渉によつてその本質を失ひ、滅次御用化するに至つたので

自由な　言論發表機關の出現を叫ぶ學生の熱望とする「現代學生新聞」の創刊が盛叫され、具體的な運動が進められてゐる。

同新聞は

一、比較的自由な言論發表機關の提供、一、各學校の孤立から一般學生の統一への素地を作らん事、一、學生一般の現社會に對する

『現代學生新聞』京都で計畫さる

言論發表の自由の爲に

去月一日の新聞紙上へ、「全國學生新聞」を刊行するプランケット(四月)新聞社は月一回發行して本社を京都に置いて關西方面に專心して後一部五錢で全國に普及せしむべく着々その計畫が進められてゐる

辯論部の座談會

計畫が

發表された幹部の顔ぶれ

本學部及び早大文學部教授田中王堂氏逝きて、はや五ケ月の月日が流れた、同氏は哲學、西洋學及び文壇に活躍してその才能と經驗とを多くの哲學者の

思慕　の的になつて居た、氏の講義を聞きその薫陶に接した多數の人々は氏の思想を永く記念するため、その貴重なる講義ノートを集めて出版する事となつた、編理委員としては本學小島教授、早大杉本教授の兩教授、東洋經濟社石橋湛山氏

故田中王堂氏のノート募集

「王堂遺稿」整理委員が

本學部及び早大文學部教授田中王堂氏逝きて、はや五ケ月の月日が流れた、同氏は哲學、西洋學及び文壇に活躍してその才能と經驗とを多くの哲學者の

思慕　の的になつて居た、氏の講義を聞きその薫陶に接した多數の人々は氏の思想を永く記念するため、その貴重なる講義ノートを集めて出版する事となつた、編理委員としては本學小島教授、早大杉本教授の兩教授、東洋經濟社石橋湛山氏

學生吸引策に圖書館大奮發

ブローズイング・セクションを備ふ

圖書館のうれしい便り一つ——本學圖書館では新學期早々新開放式のブローズイングセクションを新設、學生諸君の利用の待つてゐる、これは圖書館利用の不振を何とか挽回したいと苦心の結晶で、館長スパクマン教授と演田副館長が考案した學生の圖書館へ昇格しようとの目新しい設備だ、

×

一般的圖書の選擇——ブローズイングセクションの利點が示す如くこゝには貴ながらも謹めようといつた種類の書籍を多數備へつけ學生の肩を煩はせずに圖書館へ呼び寄せようといふもの從つて、部屋の設備もこの趣旨に添ふやう演田司書の指揮で書庫の一部の模造替へも完成し、

ふ、尚當日は茶菓の用意もあり、一般學生の振つて參加されん事を望むと

珠算と簿記の講習を

人事課の主催で

學生人事課では就職戰線に奮用的の必要を痛感して簿記、珠算等の講習會を開いて商業科の補助教育として九月末日から無週一、二回珠算講習を開くほか學生の希望によつては見學、講演會、座談會等を開催することに決定して指導者、講師等は目下當局と交渉中であるが人事課では多數學生の參加を希望してゐる

學生吸引策に圖書館大奮發

ブローズイング・セクションを備ふ

圖書館のうれしい便り一つ——本學圖書館では新學期早々新開放式のブローズイングセクションを新設、學生諸君の利用の待つてゐる、これは圖書館利用の不振を何とか挽回したいと苦心の結晶で、館長スパクマン教授と演田副館長が考案した學生の圖書館へ昇格しようとの目新しい設備だ、

×

一般的圖書の選擇——ブローズイングセクションの利點が示す如くこゝには貴ながらも謹めようといつた種類の書籍を多數備へつけ學生の肩を煩はせずに圖書館へ呼び寄せようといふもの從つて、部屋の設備もこの趣旨に添ふやう演田司書の指揮で書庫の一部の模造替へも完成し、

學園は動く

立教大學と杉浦學長の因緣

今秋の大改革

今秋の學期始めをチャンスにして突如本學當部愛の職員の通りであるが、何故前學長杉浦真二郎氏は辭めなければならなかつたか、いや換言すれば何故辭めざるを得なかつたのであるか……といふことはこれまた立教大學の職制改革と、ともに大きな問題である

杉浦真二郎氏は本學に奉職する事三十六年事實上學長のイスにあること九ケ年有余その間立教のため全生命を打ち込んで文字通り輝く立教大學をヨリ輝かせるために努力して來た事は何人も認ふ事の出來ないことである、そして杉浦氏が今後益々立教のため盡力されるであらう事を期待してやまなかつたところだ、その矢先杉浦學長は辭任された

杉浦學長の送別式

去る十七日本學ホールで

去る十七日午前十一時より本學ホールにおいて杉浦前學長の辭任式並に木村重治氏の就任式が行はれた、杉浦前學長は八月下旬、突如斷行された教職員の

變動　によりいずれも木村重治氏に繰り上げ任したのであるが、教職員以來三十五年間を「沈默の神」として一般學生より敬はれて來たのである、辭任式に當つて氏は謹、

自分は老齢のため學職に耐へ難きを以て辭任するのやむなきに至つたがこれは單なる細事に過ぎないから知れぬがこれも社會の動きであつて如何ともなし難い組自然的な事である

外部　より幾多の事を學び、次いで木村新學長の就任の挨拶あり就任式並びに就任式を終つた

頭書ノ通リ新任

杉浦貞二郎　學長事務長
須藤吉之祐　教務課長
小林秀雄　學生課長
岩佐琢藏　學生主事
武藤安雄　學生主事
狩野茂彦

以上依願退職

木村重治　學長
須藤吉之祐　經濟學部長
西太一郎　經濟學科長
河須　經濟學部
武藤安雄　經濟學科長
中曾根正三郎　教務課長
今村忠助　教務課長
和田正俊　學生課長心得
清水久太郎　學生主事補

社告

學内の一隅より驚嘆の觀角を拔ぼして月々新新正確なニュースを提供する本紙は、愈〳〵第百十五號を迎へるに至つたことは本學會の發展と共に偏に校友先輩諸者各位の經驗大なる後援と支持によるものと深く感謝する次第であります

さて所謂な發展の途にある本學會が將來益々躍飛せんとするに當り本紙の讀者層を更に擴大する必要を感ずること切であります、新聞の生命は讀者にある、我立教大學新聞をより充實させることは我々の努力であると共に多數讀者の支持によることは言を待たない、こゝに第百十五號を迎へた本紙は前途の發展が讀者の增加にあるを思ひ此記念すべき時に紙面をさいて立教全學生諸君に訴ふる所以であります（一部五錢、一年分六拾錢、但本學々生に限り三十錢です）

立教新聞學會時間空間

×

學部教授陸貴の大奮動、前になるもの、出世したものどこも同じ秋の夕くれ

×

本學會々長瀧本博士去月二十日他界さる、まつ惜しむべき老博士なりき

×

六大學リーグ戦明日から……慶應から第六位、電光石火の浸潤か、將又補欠か……

×

文化學部はどうなつた……廢刊れトンボとキ繭が立ちめえ——

閑居を訪問

去れる恩師の人間杉浦氏は何を物語つた

三十五年の學園生活九年四ヶ月の學長の職を辭して今は「たのもう」といへばどうれと答へるやうな麻布廣尾の閑居生活にふさはしい自宅で學園のいかめしい屋敷をさらりと捨てて淺草の方面を朝に夕にながめては學園の過去期から今日に及んだ足跡を見つめ、また動き行く學園の姿をながめて明日を期ふ一介の杉浦貞二郎となつた、杉浦前學長を失つたことは我々全學生も彼女、教授も等しく惜むところであり、我々は一昨年久保田富次郎前商學部長を失ひ今また杉浦學長と、こゝ二年の間にこの學園に二人の恩師を失つたわけだ、學部の興廢、兩教授問題、講堂の建築等を殺して席を木村東吉教授に譲つた杉浦前學長の私邸にその閑居を訪れた【寫眞は前學長杉浦貞二郎氏】

杉浦前學長の閑居生活はあたかも六ヶ月前民政黨を脱黨したか、脱黨させられるべくよきなくされたか、とにかく長年民政黨の巨人として黨のために全身を傾けた氏が民政黨をはなれて麻布の自宅に閑居生活した安達謙藏その人の

心境と

通ずるところのあることを見逃がせない、しかし安達氏には新黨樹立といふ望があるが、杉浦前學長の閑居生活にはその望はない、たゞ者ち行く學園の姿と、自宅に訪問する學生と學友の昔ばなしにその余生を楽しむ生活が杉浦前學長にあるだけだ

△△△

杉浦前學長を麻布廣尾町の私宅にたづねると、それはあの白髪でステキキを手にした

英國型

のスマートナ姿とは、不調和な、廣大屋敷にふさはしい家具を通つて、戰塵の塵埃に汚されたゝ、そこにはグランドピアノが黒く光つて、其國には京人形に紙日本風の着物を着せた三尺程の人形がガラス張の箱の中で笑顔を浮べてゐたゝ、やあ待たせたなといふなりソファの上に腰をおろして「君達をかけたまへ」といひながら卓上の

煙草箱

から一本だして火をつけた、在學時代に學長室で話しがあつていつた時に學長の「俺の煙草に腰をおろすと、學長は何時頃つて「だれか腰とかけろといつた」とおどかされたことがあるのも今はなき懐い思ひ出となつた

△△△

女中さんが茶果を運んで來た「食べたまへ」といつて自分が先に茶を味はうつもりか口にした「俺の職任か、それは校友に出した手紙を讀んだか」といつて例の

柔和な

特徴のある目でこちらをながめて「おれの環境がそうさせたのさ」と少しく伏目になつて「學園のために御苦労を御願しようと思つてゐた井上準之助、關塚酌、渋澤榮一諸氏が故人となられたことや、松方幸次郎氏等の財界人も世界的不景氣のために援助してもらえなくなつたからね、醫學部設立の問題にしても金がなければ手がだせないからね」時あがりの空から

應接室

に夕日を投げた、「君の方も論本さんが死なれて氣の毒だ」と洋服のポケットから時計をだしてながめた

△△△

なにか用事があるらしいので「それでは失礼致します」といふと「まだ〳〵時間があるんだよ、もつと話して行け」一度立つた腰をまたいすの上に置いてまた話をしかけたので學長の腰にも詰めて笑ひが見へた「煙草ならこれを吸ひたまへ」といはれたので自分の煙草をやめて

上等の

それに手をかけた「小島君の洋行でんな金は學校にはないよあればおれが行くさ」「綜合大學にするのには、どれ程いりますかね」「そうだね三百萬圓はいるね、木村君が學長になつても苦心で

苦心で

あらう、とにかく金の問題が第一番だられね」「今後の学生は？」「おれか、只前から研究したものがあるので今度はゆつくり勉强するさ」窓ガラス越しに「やあ先生」と呼ぶ聲がするので今度はゆつくりなつたので「いゝまをつぐると、先生が自ら廣縁間を出て行つて玄關の扉子を開けて雨によこれた靴をはくのを見守りながら「今度はひまになつたから、これからはいつでも遊びに來たまへ」といつて我々の去り行く姿をみつめてゐた人間杉浦氏の面影には一抹のさびしさが漂つてゐた

秋のスポーツ

球場に躍る若人の歡喜

更生のリーグ戰近し

……待ちわびたスポーツの秋が再び時間に乘つて訪づれて來た、微笑ましい陽光はスポーツの秋を誘はんが如く我々青年學徒の上に優しく呼びかけ始めてゐる、秋！秋！秋！今や開かれんとするスポーツの世界は我々の歓喜と興奮と飛躍とを待ち受けてゐるのだ、神宮球場に流れ飛んだ黄、紫色の興奮も今更ながら我々の胸によみがへる時、興奮と緊張とを以て今シーズンを迎へ様として居る輝々たる勇姿を携つて遊來した本學の留学中、取巻を叫んでリーグを戦選した早大に敗北した帝、明等の勇姿は歳百萬のファンを失望せしめたばかりでなく、リーグの將來に危ぶを抱かしむるに至つたが、本學の勢力は解消より加藤へ、失望より光明へと導いたのだ、もちろん昨秋までの華やかさは無いかも知れないが、精神的に一新した今秋以後のリーグ戦には數の學生の歓喜とスポーツマンシップがみなぎつてゐるのだ、感恩より王座へと……我々はいつ迄も勝利の夢に浸つてゐる時ではない、緊張なレールの上をどこ迄も邁進するのだ、我々は花さきてみのる明日の勝利を望ほう

優勝の後を受け再び王座を覗ふ

全く備ふ今秋野球部の堅陣容

あすに迫るリーグ戦

昨秋八大學野球リーグ戦に華々しくデビューしてリーグ加盟以來結成あて驚嘆し歴史の一頁を飾つた本學野球部では、驚嘆の夢いまだ十分に覚めぬうちに再びシーズンを明日に迎へて練習に余念ないが、近、慶、口、中島等の超强敵を迎りだした同部にはすこぶるさびしい感が漂つて居る、今春リーグ戦の半ばに至つて突如リーグ脱退を叫び、リーグの前途に一抹の暗影を投げかけた早稲田大學野球部に對し精力的な本學野球部の勇姿によつて復帰するや、リーグの前日一新に際して再び王座をねらつて去月卅日より猛練習を開始した、然して近、慶、口、中島等の戦闘を控つた同部ではこれが練元に苦心して居るが、昨秋本學が如實に示した如く、勝敗は個人の技れうによるよりもチームとしての技れうによるので、チームの完璧に計るべく左記の如く選手を正選手のA、準選手のBに分けて練習してゐるが、その日のコンディションによつてA、Bいづれかのチームか構成チームが出場する事に決定した

シート	正選手	準選手
P	谷	鈴
C	藤	井
1B	城	藤
2B	中	宮
3B	田	別
SS	田	木
LF	村	内
CF	島	松
PF	友	山
	菊	菊
	小	山
	山	寺
	畑	
	杉	
	浦	
	宇	
	加	
	園	

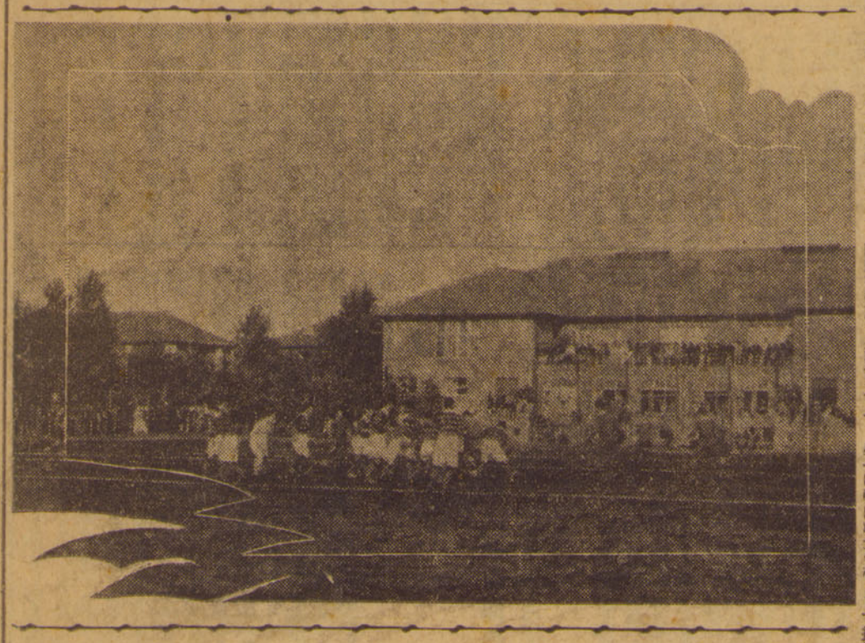
この外、投手のリリーフとして石田、高野君等が挙げられてゐる、驚ひも前にして、ファンの下馬評は乱れ飛んでゐるが、宣傳戦に侵されて百々濃君入院し、肩を傷めた内田君等正選手中二、三がその出場を危まれてゐる上に主戦投手高野君のリリーフとして出場する投手は敵て未知數であるため、菊谷投手の完投を待つ他はないと見られてゐる、本學野球部が昨秋同盟戦を得るか否かは疑問であるが、青山戦する明日の慶早大戦において、敵一これ出場敗すれば勝利の波に乘つて善戦を續け、再び勝利？へと進むであらう、尚リーグ戦日割は左の通りである。

劉日戦リーグ

回	月	日	曜	対戦
1	9月	1	(土)	立早慶明
2		2	(日)	法政慶應
3		3	(月)	法早明慶
4		4	(火)	帝法帝慶
5	10月	1	(土)	帝早法立
6		2	(日)	立法法立
7		3	(月)	法立帝法
8		4	(火)	法法早早
9		5	(水)	帝早帝早
10		6	(木)	早慶
11		7	(土)	法立
12		8	(日)	立法
13		9	(月)	立法
14		10	(火)	法立
15		11	(水)	帝法
16		12	(木)	慶帝
17		13	(金)	慶慶
18		14	(土)	慶慶
19		15	(日)	慶慶
20		16	(月)	慶慶
21		17	(火)	慶慶
22		18	(水)	慶慶
23		19	(木)	慶慶
24		20	(金)	慶慶
25		21	(土)	慶慶
26		22	(日)	慶慶
27		23	(月)	慶慶
28		24	(火)	慶慶
29		25	(水)	慶慶
30		26	(木)	慶慶
31		27	(金)	慶慶
32		28	(土)	慶慶
33		29	(日)	慶慶
34		30	(月)	慶慶
35	11月	1	(火)	慶慶
36		2	(水)	立法
37		3	(祭)	立法
38		4	(日)	立法
39		5	(月)	立法
40		6	(火)	立法
41		7	(水)	立法
42		8	(木)	立法
43		9	(金)	立法
44		10	(土)	立法
45		11	(日)	立法

▽ベンチは左が一塁側右が三塁側
▽早立戦がストレートの場合は明慶戦は25・6日
▽午時午後二時半開始
▽日曜祭日は二時
▽10月11日以後は繰て二時開始

グ・クラブが歡迎合唱



秋はスポーツから

學生訓育顧問に二氏囑託さる

曾禰、飯田(堯)兩教授

今回人事移動で學生課長の後子を拾つた學長は村部助氏は就任早々學内の人事問題に計り過ぎ殺の二名の犠牲をなし活躍の

改革

を策してゐるが同課内に訓育顧問を囑託し飯田堯一、曾禰武の兩教授を囑託した

これは主として學生の思想問題及び學生生活の向上等の積極的問題を同課と共に協力して、學生課のよりよき完成を企図するものである。なほ學生個人のあらゆる問題も希望によつて同顧問の指導を仰ぐことができるされば唯一人他人に語ることが出來ず自分の胸に解決されない

戀愛

問題に悩み信仰に動する信愛、貴族の苦しみにもだへる學生諸君は大いに相談を待ちかけ應ばぬ先の杖として指導を仰ぐ使命を果して去る三日華々しく開朝したオリムピック選手一行を歓せんと横濱埠頭に押し寄せた群集は未曾有の盛を示したが、この群集の一角より聞へくる歓聲歓は

△△△△△△

これぞ本學グリークラブの一團なだの、先にオクムピック選手一行の出發に際し、心からなる激歓の歌を送つた同クラブでは、只前同様これを迎へたのである

『彈壓をしたのも學校の爲めだ』

前學生課長岩佐氏談

杉浦前學長辞任とともに學園をさつた岩佐前學生課長を七日夕の私宅にたづねると、孫さんを抱て在職時代とは打つて變つたおだやかさん振りだ、しばらくあはない間に何氣のせいか前學期よりも急に老けて見える、岩佐氏は例の有名な一微の煙草の吸ひかたで、ものもむろに語る

「私は弁論部とか新聞學會、消費組合は確かに彈壓をしました、消費組合を解散させたのも私だ、今考へると少しひどすぎたと思つたこともあるが、私は自分のこゝ思つてしたことよりは學校のためと思つてやつたのです、左翼學生の問題でも、本學が他の大學より見て極左の人を出さなかつたことは、私が學生につらく當つたためで、今その人達が考へてくれゝばよく理解してもらへると思ふ、私は今日からは自分がやつたことを反省してみようと思つてゐます」

△△△△△△

杉浦前學長の閑居生活した安達謙藏その人の

心境と

通ずるところのあることを見逃がせない、しかし安達氏には新黨樹立といふ望があるが、杉浦前學長の閑居生活にはその望はない、たゞ者ち行く學園の姿と、自宅に訪問する學生と學友の昔ばなしにその余生を楽しむ生活が杉浦前學長にあるだけだ

△△△△△△

杉浦前學長を麻布廣尾町の私宅にたづねると、それはあの白髪でステキキを手にした

英國型

のスマートナ姿とは、不調和な、廣大屋敷にふさはしい家具を通つて、戰塵の塵埃に汚されたゝ、そこにはグランドピアノが黒く光つて、其國には京人形に紙日本風の着物を着せた三尺程の人形がガラス張の箱の中で笑顔を浮べてゐたゝ、やあ待たせたなといふなりソファの上に腰をおろして「君達をかけたまへ」といひながら卓上の

煙草箱

から一本だして火をつけた、在學時代に學長室で話しがあつていつた時に學長の「俺の煙草に腰をおろすと、學長は何時頃つて「だれか腰とかけろといつた」とおどかされたことがあるのも今はなき懐い思ひ出となつた

△△△△△△

女中さんが茶果を運んで來た「食べたまへ」といつて自分が先に茶を味はうつもりか口にした「俺の職任か、それは校友に出した手紙を讀んだか」といつて例の

柔和な

特徴のある目でこちらをながめて「おれの環境がそうさせたのさ」と少しく伏目になつて「學園のために御苦労を御願しようと思つてゐた井上準之助、關塚酌、渋澤榮一諸氏が故人となられたことや、松方幸次郎氏等の財界人も世界的不景氣のために援助してもらえなくなつたからね、醫學部設立の問題にしても金がなければ手がだせないからね」時あがりの空から

應接室

に夕日を投げた、「君の方も論本さんが死なれて氣の毒だ」と洋服のポケットから時計をだしてながめた

△△△△△△

なにか用事があるらしいので「それでは失礼致します」といふと「まだ〳〵時間があるんだよ、もつと話して行け」一度立つた腰をまたいすの上に置いてまた話をしかけたので學長の腰にも詰めて笑ひが見へた「煙草ならこれを吸ひたまへ」といはれたので自分の煙草をやめて

上等の

それに手をかけた「小島君の洋行でんな金は學校にはないよあればおれが行くさ」「綜合大學にするのには、どれ程いりますかね」「そうだね三百萬圓はいるね、木村君が學長になつても苦心で

苦心で

あらう、とにかく金の問題が第一番だられね」「今後の学生は？」「おれか、只前から研究したものがあるので今度はゆつくり勉强するさ」窓ガラス越しに「やあ先生」と呼ぶ聲がするので今度はゆつくりなつたので「いゝまをつぐると、先生が自ら廣縁間を出て行つて玄關の扉子を開けて雨によこれた靴をはくのを見守りながら「今度はひまになつたから、これからはいつでも遊びに來たまへ」といつて我々の去り行く姿をみつめてゐた人間杉浦氏の面影には一抹のさびしさが漂つてゐた

實驗心理學教室近く完成

◇……米山梅吉氏の寄附金で

三井鼎北海道社長米山梅吉氏の寄付金三萬圓の支給を當局では考慮中であつたが、文學部心理學科の応援者が急に増加するし

増加

するので、當局でも現在の授業費の一割にあつた實驗室では研究の完全を期することが出來ないのに鑑づき米山梅吉氏の三千圓を投じて、去る六日より體育館地階に洗水組の手で建築中で

ラ式蹴球部更生の意氣で

起伏こゝに一年を經て

王座よりどん底へ……落ちて昨秋最下位にあえんじなければならなかつたラ式蹴球部では再生の意氣高く、部員一同熱心歩を合せ、練をねらつて邁んでゐるので、その進歩振りは見る所が多い、ビッグ・ファイヴ、ラ式蹴球戦は來月二十九日より開始されるが、それに先立ちて、來る二十四日よりその調せう戦として十校と蹴戦を重ねてゐる

榮冠を目指す

卓球部

蹴球部では今春のリーグ戦に早大に敗北の後を受けて練つて居たが秋のリーグ戦に際し優勝を奪はれて以來々と接を追つてをり幸田、砂賀、石川の三君も調子良好で今秋は榮冠を目指して進んで居る

籠球部問題近く解決か

兩者の歩み寄りから

籠球部の部則改正問題は新學期を迎へて微かながら解決の曙光を見るに至つた、即ち、去る十六日午後八時より白十字にて開催された

△△△△△△

瀧本博士と立教學園

―その學說と信仰―

竹村豐太郎

瀧本會長を弔ふ

瀧本先生は近年すつと火曜日に立教へ來た。教員室に近づくと、先生が誰かと議論して居るあの大きな聲がいろ〳〵な話題に交つて聞えた。私には火曜日は教員室の殊に靜やかな日であつた。

瀧本先生は常に愉快な議論家であつた。あの鳳凰とあの元氣とで大議の者は時を忘させられた。可強に反對する者も例の微笑時笑の議論の如きも當時の世界の輿論に顧みかつ經濟常道論の時内に留つて居たから先生の反對者として讓論の相手を勉め、日本經濟史上の豐富な引例で漸くに沈默せしめられたのであつた。顧みて昨今の世界經濟界のすう勢に及べば轉た今昔の感に堪えない。

先生の議論は相手と時間とを問はなかつた。急心の問題について議論が結ばれば永知の行くまでは何時になつても中止しない。あの老齢で青年の如く若く、よく「昨夜は一時までしやべつた」などといはれた。

△

然しそれをひそかに憂へて節制を勧めても容れなかつた。放膽、豪快、その全貌は角張り過ぎてうつらない。最上の意味での老書生の粗大さがあつた。

波蘭美女の情話を點綴する學歴經歴の義髭が先生の老書生振りに羅列として見られた。學者の經歴が類型化して來た今、書生なる名稱さへ學年と改めらるゝ中に、興味的學歴のこの篤學老書生的法學博士を失つたことは單に立教大學の教員室のみではない、學界の寂はくを生ずるところである。

立教の國際學者は先生が大の立教愛好者たりしことを知つて居る。先生の立教大學教授たる職はその原意來住と共にはじめられた。もとより先生の更上は慶應義塾に教授として招聘されたためではあつたらうが、事實、當時先生は居を池袋（我邦の鳳凰通りと富士通りとの間）に定め、そして直に立教をも教へて居た。「來熱心に教授をつゞけられたのみならず、しばく〳〵々の慶應をなし、又常にひそかに大學の前途のために憂へらるゝところがあつた。

もとより立教出身でもなく、專任教授でさへなかつた先生が何の故かゝる特殊的興味を我大學に持たれたか。それは恐に私の明察して遥んで本大學に學ばしめたのである。最近ある總會に招かれた折、それがキリスト教徒によるものなり聞いてはじめて忙中出席を認されたこともある。

今の三月學年末の或日、先生は立教大學にキリスト教經濟學說史の講義なかるべからざるを說き、學内に他に人なければ自らその任に當るべき用意さへあるを私に告げた。しかもこれは昨年末の吐血後僅數ケ月のことである。

あの老齢を以てしてあの致命能を負へるが低に永く世に在るべきは期し得なかつたであらう。それは更に血を吐くの思ひを以て最後の日まで立教大學を愛し言てんとした先生の熱意の表現であつた。當時、先生の發病後たるをいさゝかも知らずこの話を承つた私は、今の日に及んで感慨交々胸に迫るの思ひに堪えない。

▼……▲

立教がよく好かつたと見えて一立教は繁榮ええよ、應應の教授室など、入つても勝不すゝ無もせんが、そこへいくと立教はどことなく、和やかなことがあつて、面白い」よくこんな話が出た。然し、教授の顔觸れや總任科目のことになると「どうもアレやこれや困る、なんとか出來んもんかと思ふが……」と、いふことになる。別に學材行政の方面には關係がなく、どちらかと言へば客分扱のだつたから、特別に當局へそんな話はなかつたらうが、大學の發展とか、教授の問題などには、嘗れは一トはだぬいでも、といふ熱は充分にあつたんだ。

教室には教授室の時の方が多かつたが、アノ長身で教卓の後へ立ち、力のこもつた講義振りは、少壯教授を遙に凌いで、流石に自信にみちたものだつた。

今でこそ道もかなり立派になつたが、以前の池袋はこれとは比ども問題、雨の日などは、まるで泥海のやうな中を、あの一歩一歩重心をかめて力強く歩くといつた足どりで、七十を越へた身體を運ばれたことを考へると、もう少し講義に講義を重ねればよかつた、と淚の後悔に堪へない。

▲

然しそれをひそかに憂へて節制を勧めても容れなかつた。放膽、豪快、その全貌は角張り過ぎてうつらない。最上の意味での老書生の粗大さがあつた。

波蘭美女の情話を點綴する學歴經歴の義髭が先生の老書生振りに羅列として見られた。學者の經歴が類型化して來た今、書生なる名稱さへ學年と改めらるゝ中に、興味的學歴のこの篤學老書生的法學博士を失つたことは單に立教大學の教員室のみではない、學界の寂はくを生ずるところである。

立教の國際學者は先生が大の立教愛好者たりしことを知つて居る。先生の立教大學教授たる職はその原意來住と共にはじめられた。もとより先生の更上は慶應義塾に教授として招聘されたためではあつたらうが、事實、當時先生は居を池袋（我邦の鳳凰通りと富士通りとの間）に定め、そして直に立教をも教へて居た。「來熱心に教授をつゞけられたのみならず、しばく〳〵々の慶應をなし、又常にひそかに大學の前途のために憂へらるゝところがあつた。

もとより立教出身でもなく、專任教授でさへなかつた先生が何の故かゝる特殊的興味を我大學に持たれたか。それは恐に私の明

話

瀧本さんをめぐる

吉川亘

瀧本さんにあつて話を聽いてゐるとまるで物識りの伯父さんが來て話をして呉れてゐるやうだ。いつ何處でもソンな感じだつた。

「僕らだつて、官吏をやめてから政治にでも首を突込んどつたら、今ごろは、これで、政友會の顧問位ひにやなれとつたかも知れんよ、フウン〳〵〳〵」鼻にかゝつた笑ひが、いかにも老大家らしい親しみをもつて響く學生にも、友人でも少しもこの話の調子は變らないが、それでゐて、決してブツたり、てらつたりなど、いふ態度は見えなかつた。

▼……▲

若い學生相手に話をする事が一つの楽しみでもあつたのか、著書のことなどで非常に忙しい仕事のある時にでも、「勉強せんやいかん」といふ言葉でも洩して、まともにおほひかぶせるやうにいふ人でなかつた。面白く、おかしく世間話をきかせながら、しかも勉強の必要なことを說き聽かせるといつた風――どうしても伯父さんだつた。話の間は「勉強」が絶えず吸つて、次から次へと新しいのに火をつけて行く、卅分位の間に火鉢の回り一ぱいに吸殼の百本位が、たつといつた始末、あの大きいドツシリとした體じに以合はず、このセカ〳〵した煙草の吸ひかたはどこか神經質らしい所が見えた。

これは先生の一面に、短氣で、時とすると狭者の氣性があつた事を現はして居たんだと思ふ。大分古い話だが、本郷の燕楽軒で、死んだ福田博士と二人で會食中、何んかのことから激論を始め、福田博士がテーブル・ナイフを投げつける、瀧本さんが椅子を提つて立ち上る、ともに、おほひかぶせるやうにいふ人でなかつた。面白く、おかしく世間話をきかせながら、しかも勉強の必要なことを說き聽かせるといつた風――どうしても伯父さんだつた。話の間は「勉強」が絶えず吸つて、次から次へと新しいのに火をつけて行く、卅分位の間に火鉢の回り一ぱいに吸殼の百本位が、たつといつた始末、あの大きいドツシリとした體じに以合はず、このセカ〳〵した煙草の吸ひかたはどこか神經質らしい所が見えた。

これは先生の一面に、短氣で、時とすると狭者の氣性があつた事を現はして居たんだと思ふ。大分古い話だが、本郷の燕楽軒で、死んだ福田博士と二人で會食中、何んかのことから激論を始め、福田博士がテーブル・ナイフを投げつける、瀧本さんが椅子を提つて立ち上る、で

法王廳は動く

古谷郁郎

法王廳の足跡は太い歴史の線であり、それはしば〳〵多くの興つた線と交錯したのであるが、然し決して切斷されてはゐない。で、もし歴史の車輪がこの線に沿ふて進轉するならば、そこには巨大なピラミットの頂點に立つて封建ヨーロッパに號令してゐるところの法王がゐるのだ。だが、われらの興味は寧ろこの法王史の最後の頁にどんな新しい頁が綴られるか、といふ事である。

然しもちろん、この頁に記載されるものは、法王廳の今日とそして明日の必然的な發展であり、おそらくそれは何人の眼にも大きくうつるに相違ない――何故？――それは今日、個々の宇宙によつて創られ、そしておそらくはその主人公さへも明確には掴まれてゐないかの如く見へるこの現實的な動理、といつたやうなものは寧ろ早われらの眼界に置かれないであらうから。

法王廳の勢力は中世に於ては何人も否定する事は出來なかつた。これは否定する事はヨーロッパを否定する事であつた。然しもちろん封建社會の崩壊と法王廳の基礎との内部從來の崩壊は法王廳の相違なかつたがその故に法王廳は滅亡にはなつたがその故に法王廳は滅亡にはなつたがその故に法王廳はまでもその生命を保持し、然も新しい時代の衣を着たのである。そして皮肉にも、法王のピラミットをゆるがしたところの、そして近世資本主義國家の擡頭と共に、次第に上向線をたどつて來たところのリベラリズムの潮流を見て微笑したのである。

× × ×

法王廳はローマ政治によつてその支持者であるハプスブルグ家を失ひスペインの革命によつてポルトガル王朝を失つた。然し法王廳はこの間にもつとも重要なものを得たのである。それはイタリー・ファシスト政府の成立によつて法王の主權の獲立であり、その運行後廳としてのヴァチカン市國家の成立である。然しこれは法王廳がその組織目的を遂行するに必要な現實的條件を法的に獲得した事であつて、決して俗世的權利を追求するためのものではないといはれてゐる。從つて法王廳とイタリー政府との間には、互に昭ゆる事の出來ない線が引かれたわけである。

然しこの約束が徹底すれば、ローマに二つのオーソリティーがあるといふ事に何等の矛盾もないはずである。とすれば、イタリー政府は法王廳と連繫する事なく、國内及國際政治において自由にその權能を發揮する事が出來るであらう。そして又、バルカンにおいてニューデール同盟の支持者（ソ連系第六回配本―上巻勞史兼中巻歴史認識の目標、下巻歴史研究の實際的方法の三篇から成つて豫に下篇は興味深い（菊判二七九頁豫約共立社發行）

◇日本資本主義發達史講座（第三回）羽仁伊豆主城小林半野屋部武田山田の八氏執筆、ます〳〵いゝ（一回一圓、岩波書店發行）

◇農民年鑑問題と解説（滋賀多嘉雄著）河合榮治郎氏の序書を巻別に反駁してゐる（四六判九五頁廿五錢原理日本社發行）

◇世界と日本（下村宏著）内容目次＝戰爭か平和か議會政治かファッショか現代に關心を持つ者は一讀すべし（五百頁・價一圓）

◇「ヘーゲル弁證法」（ヘーゲルをめぐる資派的問題によせて（エム・エフ外九篇の論文集（菊判二百八八頁・價一圓・プロレタリア科學研究所ソヴエート同盟研究會發行）

興味は寧ろこの法王史の最後の頁にどんな新しい頁が綴られるか、といふ事である。

然しもちろん、この頁に記載されるものは、法王廳の今日とそして明日の必然的な發展であり、おそらくそれは何人の眼にも大きくうつるに相違ない――何故？――それは今日、個々の宇宙によつて創

瀧本氏の著書

▼歐洲經濟學史　菊判三〇二頁・春秋社
▼日本貿易史　ポケット型一七二頁・春秋社
▼日本經濟典籍考　菊判四五四頁・日本評論社
▼經濟一家言　菊判八七四頁國文堂
▼日本經濟史　菊判六五〇頁
▼日本經濟大典　菊判八〇〇頁全五三卷
▼乞食ぶくろ　四六判四〇〇頁・日本評論社
▼歐洲經濟史　菊判四七四頁丸善圖書株式會社

弔文

立教大學新聞學會

昭和七年八月十八日付立教大學新聞第百十四號の印刷・綴密をへて一昨日ついたところ、突如一報に接しました我が立教大學新聞學會員一同は、暫間その前途はやかに暴はれてしまひました。

丁度立教大學新聞が池袋鳴鳥ケ丘の一角で孤々の聲を上げたのが、今から十年の昔であり、その時、初代の立教大學新聞學會長に御巡り下つたのが瀧本先生でした。それから今日まで、新聞學會のたゞり續けたのは、文字通り荊棘路であり、時には經費難に陥ひ時には失敗のうき目に見ゐ、さらに御巡者としての老憂心で、時には、さらに御巡者としての老憂心で、時には、さらに御巡者としての老憂心で、時には